



インド 35 ラジャスタン州植林開発事業

A ラジャスタン州15地域において、森林局と地域住民との連携による植林と牧草の植え付け等を行うことにより、牧草・飼料等の増加による生産性の向上、環境保全および雇用創出を図り、もって同地域の貧困削減に寄与する。

承諾額/実行額 42億1,900万円/42億1,900万円
 借款契約調印 1995年2月
 借款契約条件 金利2.6%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド
 貸付完了 2002年4月
 実施機関 ラジャスタン州森林局



外部評価者 中村 千亜紀(グローバル・リンク・マネージメント(株))
 現地調査 2004年10月

評価結果

本事業では、ラジャスタン州15地域において、ほぼ計画通りに約5万5,000ha(神戸市の面積と同程度)の植林、水源涵養のための簡易な堰の建設等が実施された。期間は一部植林の遅れにより計画を上回り、事業費は計画を若干上回った。

生産面では、牧草・非木材産物(飼料等)の総生産量(額)が5万5,000トン(5,000万ルピー)に達している。また、環境保全の面では、2001年における植栽1年後の植林木の生存率は目標値の70%を上回り、平均72%に達している。また、植栽後1年で周辺井戸の水位は平均1.8%上昇し、土壌の保水能力も改善されている。雇用創出の面では、約2,200万人・日に達している。

受益者調査では、74%が「飼料の確保にかかる時間の短縮」、66%が「世帯収入の増加」を挙げている。そのほ

かにも、「燃料費の節約」、「水利用の利便性向上」、「重労働の軽減」等が挙がっており、これらが女性を取り巻く環境の改善に貢献したことも確認されている。

ラジャスタン州森林局と運営・管理を担当している森林保護委員会の技術、体制、財務面について問題はない。

第三者意見

本事業は、森林の蘇生を通じて水資源の涵養や砂漠化を防ぐもので、高い妥当性を有するとともに住民の生計向上に貢献し、社会経済状況も改善している。

有識者 Mr. Kuldip Nayar (マスコミ)

グル・ナナク・デブ大学博士(哲学)。現在、フリージャーナリスト。元上院議員、元英国特使、元国連代表。専門は外交。

本事業の計画と実績および達成率

本事業は、裸地植林、荒廃林の復旧、燃料用材植林、牧草植え付け、農家林業からなる植林部分、水源涵養(小規模堰堤)、簡易火葬場建設等の植林以外の事業内容からなっている。

事業内容	計画	実績	達成率(%)
(1) 植林部分 (ha)			
① 裸地植林 (ha)	12,000	11,525	96
② 荒廃林復旧 (ha)	29,000	29,947	103
③ 燃料用材植林 (ha)	8,000	8,053	101
④ 牧草植え付け (ha)	6,000	6,053	101
⑤ 農家林業 (万本)	8,000	8,700	109
(2) その他			
① 水源涵養(小規模堰堤)(カ所)	530	600	113
② 簡易火葬場建設(カ所)	250	252	101



本事業の植林により得られた薪を運ぶ女性たち